

大河ドラマ『南海道の晴嵐』を期して（二七二）

文・出水 康生

戦国おもしろ百話

四五〇年の昔と今、勝瑞三好城館に三好実休の凱旋

「勝瑞城館跡まつり」に特別ゲスト参加から、夢がまた開く

誇るべき故郷の歴史

いつもいつも信長・秀吉・家康でもあるまい、信長の直前二〇年の戦国天下人三好長慶、三好時代こそ見直されねばならない。「細川・三好氏の時代」「阿波の藍か、藍の阿波か」とされた時代が日本史上に阿波人が最も輝き、天下を取りをした時代とされる。その両者に勝瑞瑞祥の佳名の勝瑞、その地を中心とする藍園・住吉の藍住の地が関連する。悠久の大河、四国三郎吉野川の平野形成とその水運が背景として存在する。四国の

「臍」の「三好の地」から岩倉・脇城、そして勝瑞三好城館にホップ、ステップし、そして一衣帯水の京畿・堺にジャンプする。

阿波・讃岐・淡路（ASAトライアングル）を本拠として、三好長慶が京畿・堺に戦国天下人の地歩を築き「環大阪湾政権」を形成する。それが織田信長の怒涛の上洛直前のこと。これらが、日本史の時期区分、
「ぼやき・嘆き・異民性論議」のネガティブな発想で正当に許可されることがなかった。四〇〇年来に埋もれていた「勝瑞三

好城館跡」の科学的発掘調査による「ふるさと創生、地方創生」のための「宝物」を掘り出し、それが国史跡に指定され、近い将来に国の史跡公園に形成、公開される。

国史跡指定を記念して「勝瑞城館跡まつり」が開催されて、これまでに十四回、その半数が雨天に困惑したとのこと、今年第十五回、われらの三好長慶会を中心とした「武者行列」が初めて「特別ゲスト」として参加し、誇るべき故郷の歴史の再認識、全国発信の役割を担った。
「天気が一番」を合言葉に、天

運、天気を祈りつつ、元氣・運氣・根氣・やる気・勇氣の「天気」の合一を唱え、最高の「天気」に恵まれての出陣が同志の協力で実現。

「勝瑞城館跡まつり」の方向性

熱心な地域の実行委員会（中林忠司委員長、小林和子・勝野純子・岡本律子さんを中心）が活動される。「平成二七年度勝瑞城館まつり」の「ちらし」が印刷され、町内に五月四日に配布される。その裏面に記録される多くの方々のご寄進・ご協力に感謝と同志としての可能性を信ずる。これまでは「地域のおまつり」とされてきた「勝瑞城館跡まつり」の「勝瑞城館跡」が全国から注目される。「高槻まつり」「堺まつり」「三好市長慶武者行列まつり」（三好市三野町）で三好氏が顕彰される。最近の中近世移行期の時期区分による研究成果の蓄積、三好長慶・松

永久秀の再評価、マスコミによる「特集」などから「勝瑞三好城館跡」の重要性を全国にPR、発信すべき「時」が来ている。その自覚が求められ「民度」が全国的に注目されている。開会式での石川知能町長の挨拶、ゆるキャラ藍之助の紹介、木南征美徳島県議会副議長の論旨明快な、大河ドラマ実現に協力」の挨拶の地元での新たな展開、「三好実休と千利休」の歴史的な関係から「実休の茶の湯」の全国発信を期待。

三好一族五〇〇年 御遠忌法要

天気が一番の天佑を祈って三好一族の法要を見性寺で奥田忠良住職、良知副住職の厳粛な読経で挙行。法要には徳島県重要文化財の三好之長・三好元長画像を右左に掲げ、心ある同志が注目。一〇〇人有余の法要参加者が焼香、合掌。そして本堂前の一族墓碑に供養卒塔婆を並列



挨拶の石川知能町長とゆるキャラ「藍之助」（坂東正文さん撮影）



“大河ドラマ”をとの木南征美県議会副議長



旗幟を背に「三好実休と千利休」の講演



見性寺での三好一族500年御遠忌法要



法要の後に墓前に祈る



行列・出陣前に見性寺本堂前にて



坂本勝義さん作の横断旗幟を先頭に、勝瑞城跡を背に

旗幟高らかなる面々

して共々に祈念、合掌。

最高の天気恵まれる。徳島新聞の予告(五・九)で「長慶会の二二〇人参戦」報告(五・十一)で「勇壮、二二〇人が武者行列」とされたが、その昔の大本営発表なら？との参加、協力。茨城、東京から、一五二七〇三二年の「堺幕府」の堺から「三好一族と堺幕府」の旗幟で観光ボランティア協会の川上浩理事長・高三寿次郎前理事長・柿沢和代さんら有志十二人。堺の地域おこしをちくちくと図る「ちくちく会」の竹内魁成会長・崎田公明・岡村哲伸、木岡清さんちくちく会は昨年七月四日の三好長慶四五〇年遠忌命日を期して南宗寺甘露門前に「戦国天下人三好長慶公」坐像の建立・除幕の先達。岡村さんは坐像制作の彫刻家。木岡さんは徳島県人会近畿連合会々々長でもあって「阿



勝瑞三好城館跡に凱旋して「鶴翼の陣」



徳島県人会近畿連合会木岡清会長



依代の大傘の下で風流踊り、阿波踊りの達人 四宮生重郎



風流傘を手に踊る、若武者の正座観覧

部、われ等の本陣の前に集

依代の大傘、風流踊り

同志たちの武者集団が、その昔の会所の館まつり本陣、われ等の本陣の前に集

波おどりと三好長慶」を両輪とされて「大河ドラマ実現を」と念じられる。芥川山(三好山城)の高槻から「三好芥川山城の会」の大和實会長・堀孝・吉田義行さんら同志二二人。「第三八回高槻まつり」から以来八回に樺通りで武者行列、大広場舞台での大音声の勝鬨。大和・坂東静央さんは、故郷に錦を飾る〴〵心意気。観音寺市伊吹島から一騎当千の伊吹島三好研究会の三好兼光さん。高松市の十河城から勝瑞三好城館の最後の城主であった十河存保の後裔の十河延康さんら十河同族会の十人が十河一存、存保の二本の抜群の旗幟を高らかに掲げられた。県内からは三好長慶・実休・冬康・一存・冬長の姉妹が嫁いだ海部氏・有持氏・一宮氏・大西氏が旗幟鮮明に実休本隊の前に位置。海部氏には西田益良さんを中心に東條英機、美人の島田町おこし協力学芸員が新調の海部、宍

喰城の旗幟、二二〇年よりの歴史を持つ城満寺の田村航也師、愚山修行僧らと海陽町の町おこしのための視察に岡田啓教育長ら十二人。有持氏には大阪守口市の嘉之・一之・雅一・虎之助の男系四代とその家族・縁者、吉野川市の上浦城の有持敏雄父子二代ら総勢十五人。一騎当千の一宮宏行さん。三好市三野町の三好長慶・実休らの生誕地の芝生城を誇りとして「三好武者行列まつり」を挙行する鈴木茂幹・林吉一さん、菩提寺の長尾密明さん、近畿三野ふるさと会の鈴木忠昭さんが応援。実休本隊に「理世安民」の旗幟の吉成昌彦、「南海道の晴嵐」の鎌村光悦さん。その旗本・小姓組に篠原長房・原田大和守の中野成美父子と奎吾・志保・花保ちゃん。三好敬子さんの孫の悠斗君と友人二人。美馬市からの鎌田女史の孫さん三人が甲冑の若武者と折り紙兜の女兒。そして錚々た

鶴翼の陣の布陣

る武将隊として濱隠岐守・庄野和泉守・犬伏左近・坂東紀伊守・高見紀伊守隊・そして殿軍として新開遠江守隊。さらに飛び入り自由の案山子隊。ことほど左様に、誇るべき故郷の歴史の再認識を意欲する善意の同志が共々に行進・同行・観覧してくれたことに、感激・感謝!!

「勝瑞城館まつり」のプログラムで与えられた十二・五〇〇十三・三〇分の時間に、前述の面々の武者行列隊が、五万平米余の広大な勝瑞三好城館跡に、三好実休の凱旋として集結して旗幟高らかな軍団の勇姿を示し、鶴翼の陣に布陣せよの号令で、縦の行列でなく横幅広く展開し、法螺貝、太鼓の音に合わせて、「理世安民」「南海道の晴嵐」の旗幟高らかに、坂本勝義さんの渾身の揮毫の「三好長慶会武者行列、祝三好実休三好城館凱旋」の横断旗幟を誇らかに示して、全軍が堂々と前進。それが前代未聞、未曾有の、四五〇年の昔と今の戦国ロマンを、実現した。

「大河ドラマ」への構図、努力を

四五〇年の昔と今の戦国ロマンが未曾有のものとして実現された。勝瑞三好城館の意義を町民、県民、国民の視点で集約され、地元への「民意・文化度」を誇示しての今後に期待!!

結し、木岡清さんの激励挨拶のその後にはマイクなしの大音声の口上とエイツ・エイツ・ウォーの勝鬨。そして最後に、勝瑞城下で十河存保が京から能楽四座や芸人を招待して、天正六(一五七八)年の盂蘭盆会に、風流踊りを盛大に挙行した。それが『三好記』に記録され、「阿波踊り」の最初の記録とされる。現代の阿波踊りの達人の四宮生重郎さんを先頭にNPO倫理プラザの受講生十五人、娯座留連の鳴物八人の合奏で、東條英機さんの肝入りの大傘を依代として狂乱、乱舞する。その中に海陽町の城満寺で修行する愚山さんが錫杖を大地に突き刺しての風流な踊り、それが風流踊りの原点か、と注目。

〴〵夢幻や南無三寶くすむ人は見られぬ夢の夢の世を、うつつ顔して何しようぞ、一期は夢よ、ただ狂へ、一期は夢よ、ただ狂へ」と四五〇年の昔と今の戦国ロマン。